



スクールパックでは、臨時時間割・行事等に対応する調整機能と、複雑な時間割や大規模校で便利な機能が追加されています。併設校・総合高校等だけでなく、中学校・普通高校での採用も増えています。

スクールパックは、標準版と比較し、以下の点が追加されています。

- 標準版より高性能な本体プログラム(臨時時間割対応等)
- 時間割閲覧ソフト付属・ライセンスを2組追加(合計3個)

● 本体プログラム： スクールパック独自の追加機能

時間割変更・臨時時間割に役立つ機能

- AI一覧表示の追加機能
 - AI一覧表示右クリックで、「駒書き換え」・「削除」・「同じ駒の追加」・「追い出し振替提案」の追加
 - 試験直前の単位調整等、臨時性の高い変更役に役立ちます。
 - 残り駒欄右クリックでも「削除」・「駒書き換え」が可能です。
 - 関連情報を一覧形式でも表示
 - 関連する駒の情報を一覧で詳細表示。最後の詰め等に活用します。
 - 「補助一覧表示」は、別ウインドウで補助の一覧を表示
 - 関連する先生・教室、離れたクラス等を表示して活用します。
- 駒はずしの対象選択肢の追加
 - 「曜日」と「時間」を指定して駒はずし
 - 行事や、臨時時間割等の作成などに活用します。
- 行事の簡単設定
 - 行事をウィザード形式で設定
 - 行事設定後に、AI機能で調整後、残り駒を削除します。
- 選択授業・通常授業変換
 - 間違っって設定した授業の変換や時間割変更の際に役立ちます。
 - 選択授業・通常授業を互いに交換
 - 二つの選択授業を指定して統合
- 全休・半休簡単設定
 - 「全休」・「半休」(午前・午後)を曜日・時間を指定しないで回数設定
 - 休暇や研究日に対応します。時間が特定されない場合に便利です。

AI一覧表示(表示例:クラス一覧)

補助一覧表示(表示例:先生一覧)

選択授業・通常授業変換

全休・半休簡単設定

スクールパック専用オプション

- 授業設定で先生と教室が空白でも、駒入れ対象とする。
- 駒入れオプション全解除の際、全個別オプションを無視する。
 - 全体オプションの他に個別オプションも全て無視する事ができます。
- 駒をシフトキー+ドラッグで1時間単位に分割します。
 - 1時間単位に教室変更可能で授業データにも反映されます。
 - 残り駒も同様な操作で駒分けが可能です。
- クラス・科目単位に配置を固定するマスクを設定できます。
 - 設定したクラス・科目が駒移動の対象からはずれず。
- 教室一覧でドラッグドロップ時に、空き教室を明示
 - 右図「教室」の表示で3-3クラスの調理室をドラッグすると、技術室は使用中で、家庭科室が空いていることが明示されます。
- 移動提案時に教室から押し出す駒の指定
 - 複数の駒の中から、押し出したい駒を指定できます。
- 関連情報表示を一覧形式で行う
 - 駒の関連情報を一覧(黒板)形式で表示する事を選択します。
- 駒入れオプションを曜日で制御する
 - 駒入れオプション(全体)の適用を曜日単位に(数値)指定します。
- 追い出し振替提案
 - 振替提案で指定した条件の駒が入らない提案に限定します。
- 指定情報一覧表示設定を開く
 - 関連情報表示に表示したいクラス・教室・科目・先生を選択します。
 - 4種類の表示設定が可能で、複数の関連情報画面を表示できます。
 - 先生・クラス・教室等と画面を分けて表示すると、時間割を立体的に把握できます。

駒分け(1時間単位に分割)

教室一覧ドラッグドロップ: 空き教室明示

追い出し振替提案↓

選択授業の内容一覧表示

- 選択授業の内容を確認し管理する事ができます。
 - タイル表示 選択授業名と配置された時間をグラフィック表示
 - 属性表示 選択授業名・単位数・先生・クラス・科目・教室・授業IDを文字表示。横長サイズで長い名称も表示。
- 「先生」「科目」「クラス」「教室」順に並べ替えが可能
- 詳細画面への連携もしています。

属性表示

詳細ダブルクリック

タイル表示

時間割データ 結合・分割・連結 一括入替

結合入替ツールはスクールパック本体に統合され、一手戻しも可能です。

時間割データ結合
 多人数で分担入力した授業データの一つに合体する機能で、先生・科目の多い学校で役立ちます。分担の単位は、学年や科目毎などに自由に決められます。操作はファイル指定する簡単な作業です。結合の際に重複がある場合はメッセージ表示します。

一括入替
 行事などで、学校全体で時間割変更する場合に利用します。時間割データを読み込み、曜日や時間を指定して学校全体で駒交換します。

時間割データ分割・連結
 2週間単位の時間割を週単位で分割・連結し、連続して1週間未来の授業を振替対象にします。1週経過後に第1週のデータを分割機能で過去週として切り離し、第2週に第3週のデータを連結して、振替対象とします。

